長春の魅力

　 鳥取県交流人口拡大本部

観光交流局交流推進課

主事　奥村　賢司

　私は、2019年4月より10ヶ月の予定で、中国吉林省に派遣されています。こちらでの生活も早いもので9ヶ月が経ちました。本稿では、派遣先である東北師範大学のある長春を紹介したいと思います。

　長春は、「大学の中に長春がある」と揶揄されるほど、大学が集中している都市です。およそ30校もの大学が鳥取市面積の約4分の1の市街地に集中しています。長春は北海道の旭川市とほぼ同じ緯度に位置します。なので、海のない北海道だと言われて、送り出されました。実際に、夏は20度前後で過ごしやすく、冬はマイナス20度を下回る日もありますが、工夫と気合いで乗り切っています。産業も盛んで、中国自動車産業の大手「第一汽車」が本拠地を構えています。農業も盛んで、「中国の食糧基地」といわれています。

　中国は非常に広大で、55もの民族を抱えており、北方と南方で全く文化が異なります。食べ物から気質、体格まで全くといっていいほど特徴が異なります。私は、北方も南方も行きましたが、長春のある中国東北地域の方々は、中国の中でもとりわけ親切でサービス精神が旺盛で実直な方々が多い地域だと感じています。北方は寒さが助け合いの文化を育んだのかもしれません。「外は寒いが、人の心は温かい」、長春はまさにこのような場所です。

　ご存知の通り、長春は、旧満州が置かれた都市で、日本と歴史的に深い繋がりがあります。今も残る旧関東軍司令部や旧満州ヤマトホテルといった旧満州時代の遺構が現在も銀行やホテル、大学の施設などに利用されており、観光客の目を楽しませてくれます。特に、夜になると街全体がライトアップされて、幻想的な光景が広がります。これらを見るにつれ、当時の先人たちは、おそらく百年後を見据えた都市計画を構想していたのだとつい感傷的になってしまいます。一方で、2017年には、地下鉄が開通し、主要幹線道路等のインフラも整い、歴史的な近代的な都市レガシーも集積しつつあります。

　他方、自然環境にも恵まれています。実は、中国一のスキーリゾート地は、吉林省にあります。お隣の吉林市郊外にある松花湖国際スキー場は、最新式のゴンドラや高級宿泊施設が整備され、良質なパウダースノーが楽しめる中国有数のスキーリゾート地です。日本のオリンピック選手も調整に訪れるそうです。中国では、2022年に北京冬季五輪が開催されるので、ウィンタースポーツの普及に力を入れています。今後、ウィンタースポーツの愛好家が広がり、競技施設や競技人口の拡大が期待されます。

　中国のなかで、中国の東北地域は、日本語学習が最も盛んな地域なので、日本人にとって観光しやすい地域です。長春から北に足をのばせば、氷祭りで有名なハルビンへ、南に足をのばせば、「北の香港」といわれる大連が近いです。大連では、日中関係が険悪になった時でも、反日デモが起きなかったと聞きます。米子鬼太郎空港と上海空港を結ぶ直行便も就航しました。上海や北京など南方もいいですが、是非とも一度、北方の長春にも足を運んでみてはいかがでしょうか。